

株式会社ビジョナリーホールディングス

2020年4月期 第2四半期決算説明資料

証券コード：9263 JASDAQ-S

2019年12月

 VISIONARY HOLDINGS

株式会社ビジョナリーホールディングス

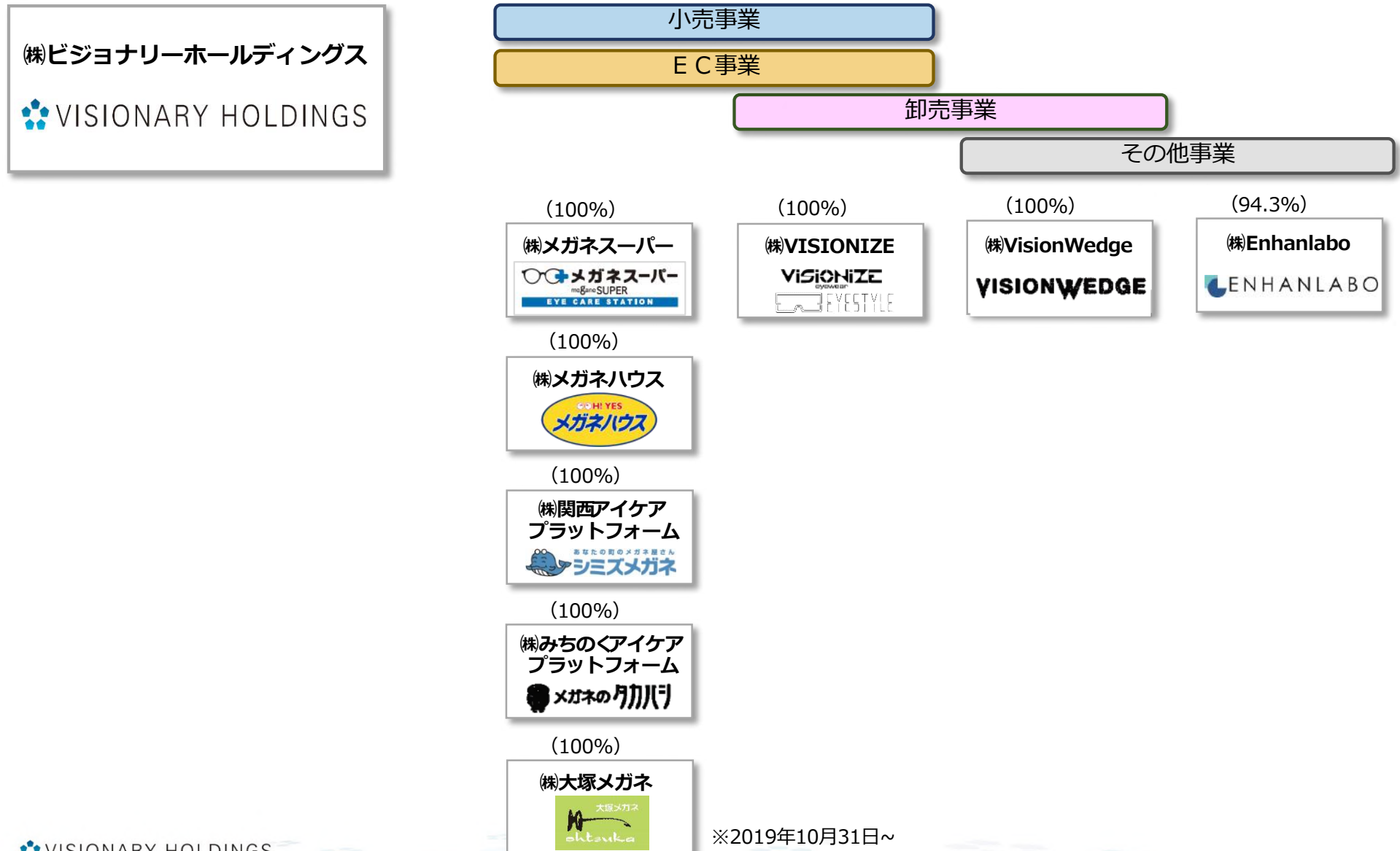
目次

当社グループの事業内容	P. 3
20/04期 2Q連結業績	P. 5
セグメント別概要	P.19
小売事業	P.20
卸売事業	P.39
E C 事業	P.41
その他事業	P.43
今後の予定	P.46
エムスリーとの資本業務提携について	P.48
Appendix	P.57

当社グループの事業内容

当社グループの事業内容 (2019年10月31日現在)

当社は小売事業、EC事業、卸売事業、その他事業の4事業、子会社8社で構成



※2019年10月31日～

20/04期 2Q連結業績

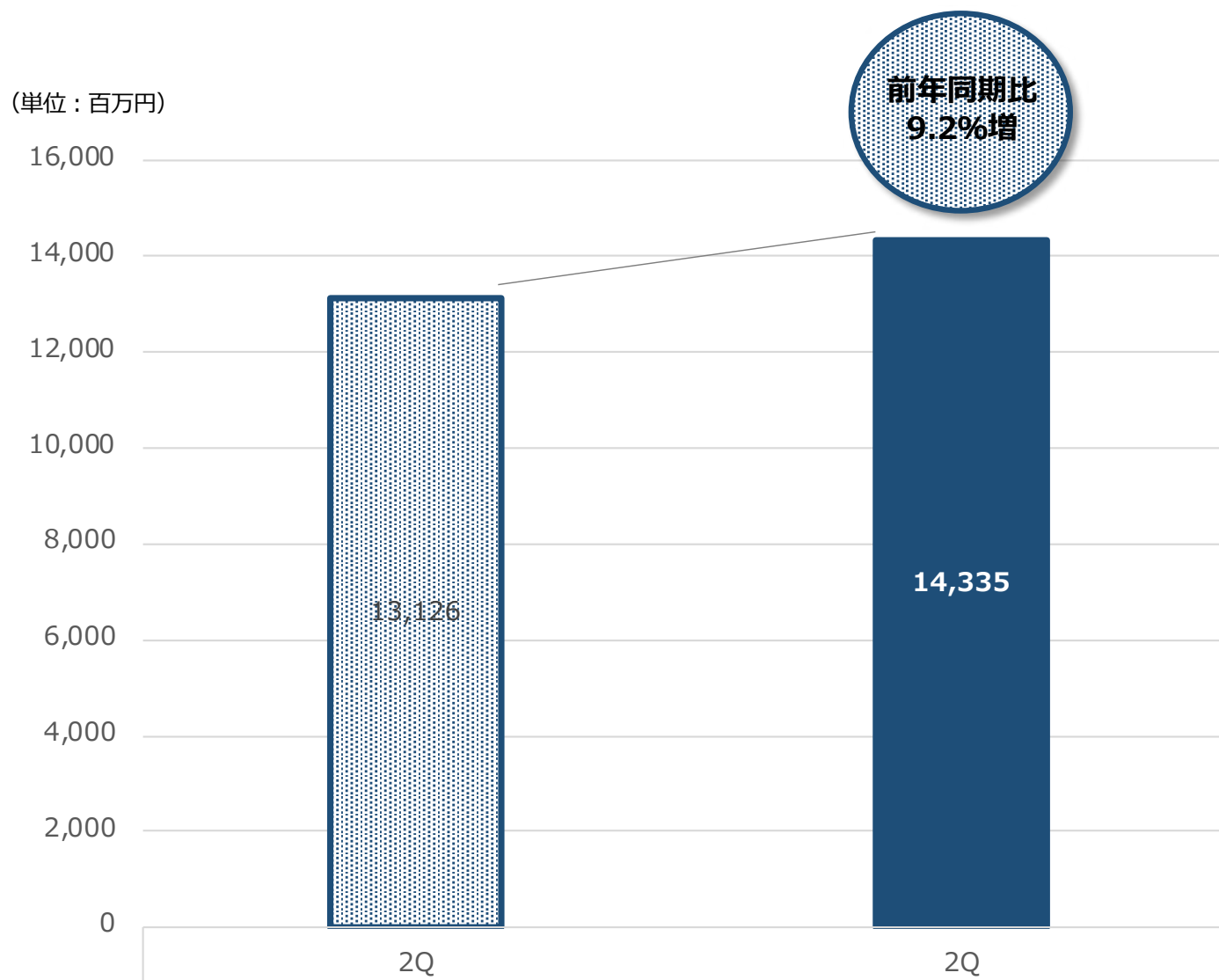
(2019年5月1日～2019年10月31日)

20/04期 2Q連結業績ハイライト

- 2Q累計連結売上高は**前年同期比9.2%増**の143.3億円
- 2019年10月31日に株式会社大塚メガネの全株式取得に伴い子会社化
 - ・ 2QよりB/S連結、3QよりP/L連結開始
 - ・ 11月1日に大塚メガネが保有するMS3株式を譲渡
 - ・ 大塚メガネの子会社化及びMS3株式の譲渡に伴い、2Q連結財務諸表に**負ののれん発生益として1.0億円を特別利益に計上**
- “更なる成長の地固めの期間”と位置付ける中期経営計画（20/4期～23/4期）に基づく事業成長投資（4力年で総額60億円）の進捗率は**21.7%**
- 事業再生の完遂に伴い1Qに実施した種類株式を普通株式に交換する施策に伴い増加した借入金は完済（10月末5.2億円）するも、VISIONIZE株式の追加支払いに伴う新たな借入（総額13億円）により、**自己資本比率は9.9%**（前期末10.9%）
- アーンアウト方式で株式取得したVISIONIZEについて、マイルストーン達成時期が3Qから1Qに早期達成となったことに伴い、株式取得時からの既経過分の一括償却に伴うのれん償却負担増により、2Q累計期間の連結業績予想を修正。ただし、**通期業績は修正なし**

連結売上高（前年同期比）

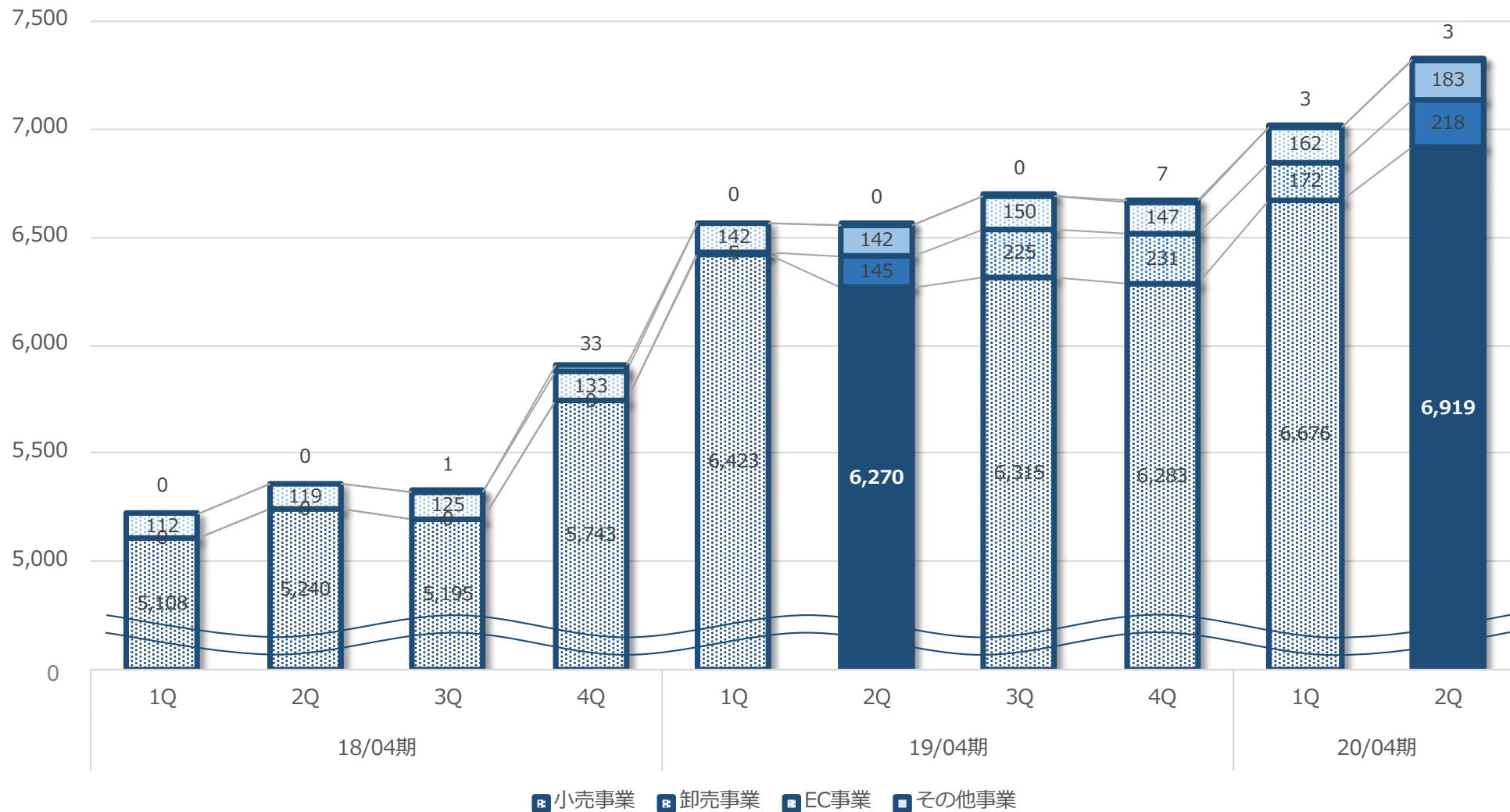
2Q累計連結売上高は前年同期比**9.2%増**と成長を継続



セグメント別売上高（四半期推移）

全セグメントにおいて前年2Q比増を達成

(単位：百万円)



売上総利益（四半期推移）

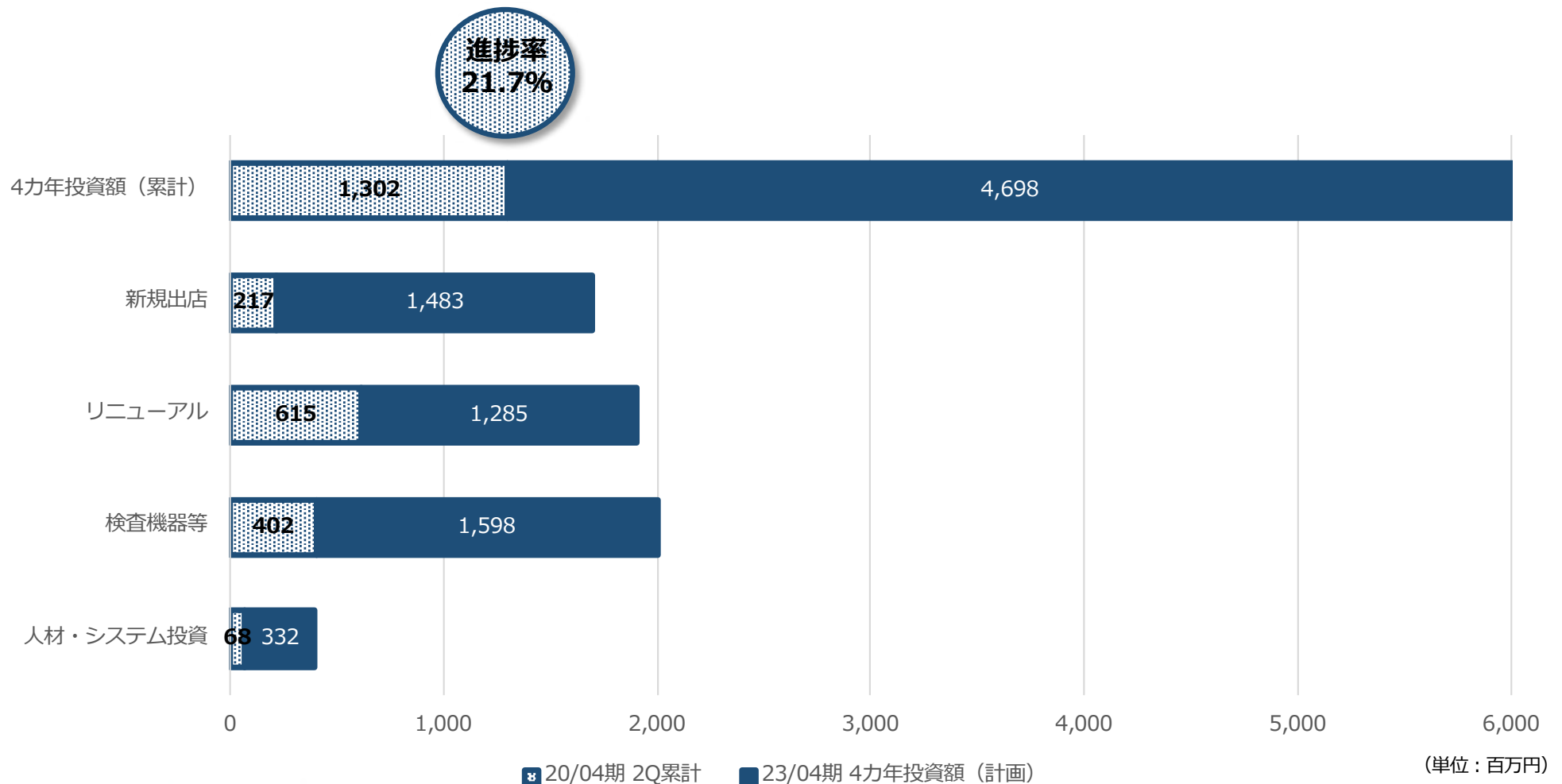
各事業売上の堅調な伸びにより売上総利益は前年同期比**10.2%増**、商品構成の変化に伴い売上総利益率は前年2Q比0.9pt減の62.6%、前年2Q累計比1.2pt減の62.5%

(単位：百万円)



投資の進捗

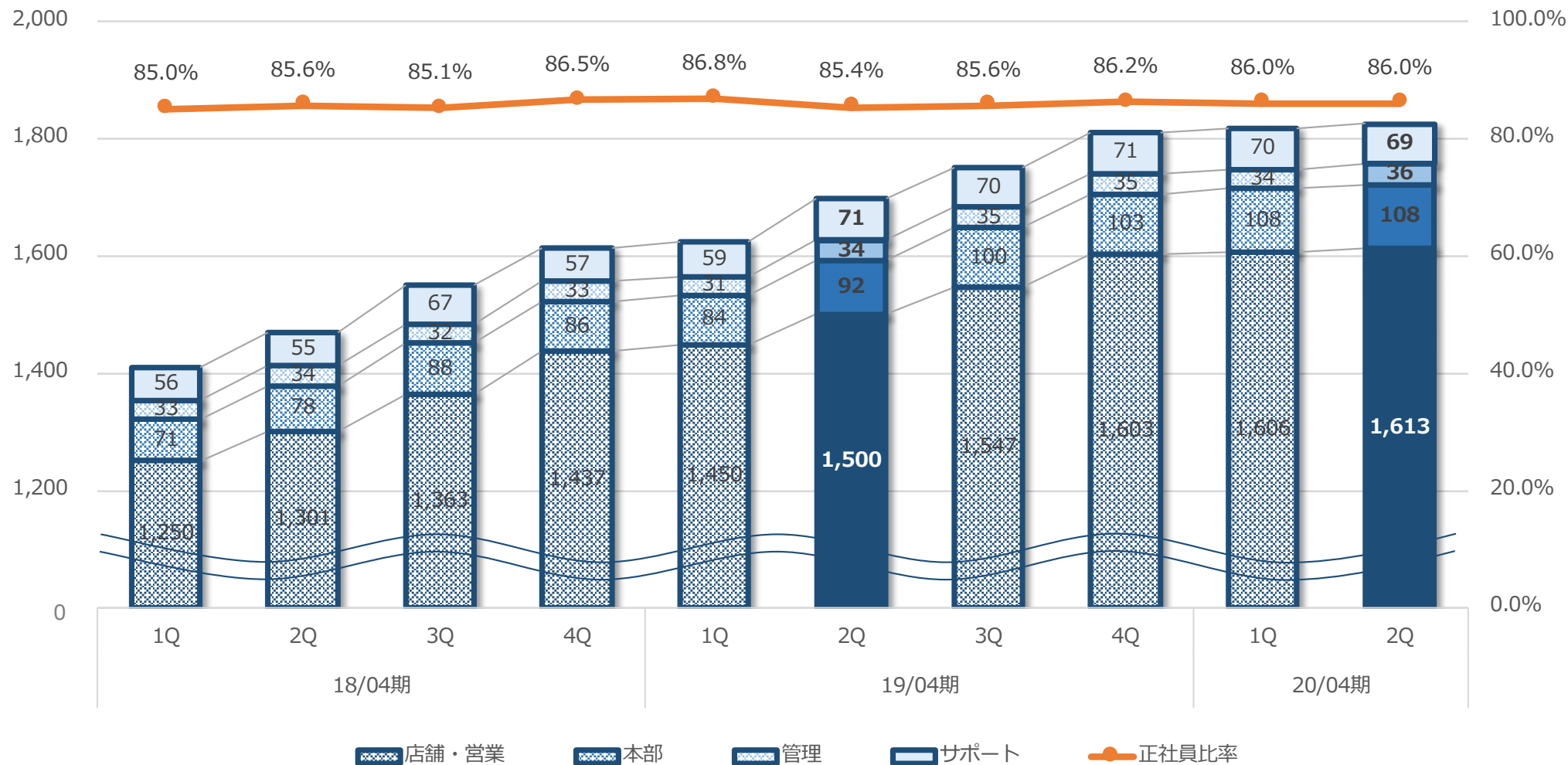
“更なる成長の地固めの期間”と位置付ける中期経営計画（20/04期～23/04期）期間の初年度上半期は、次世代型店舗への移行や検査機器のリニューアルを中心に事業成長投資を行う。4カ年事業成長投資の進捗率は21.7%



従業員数推移

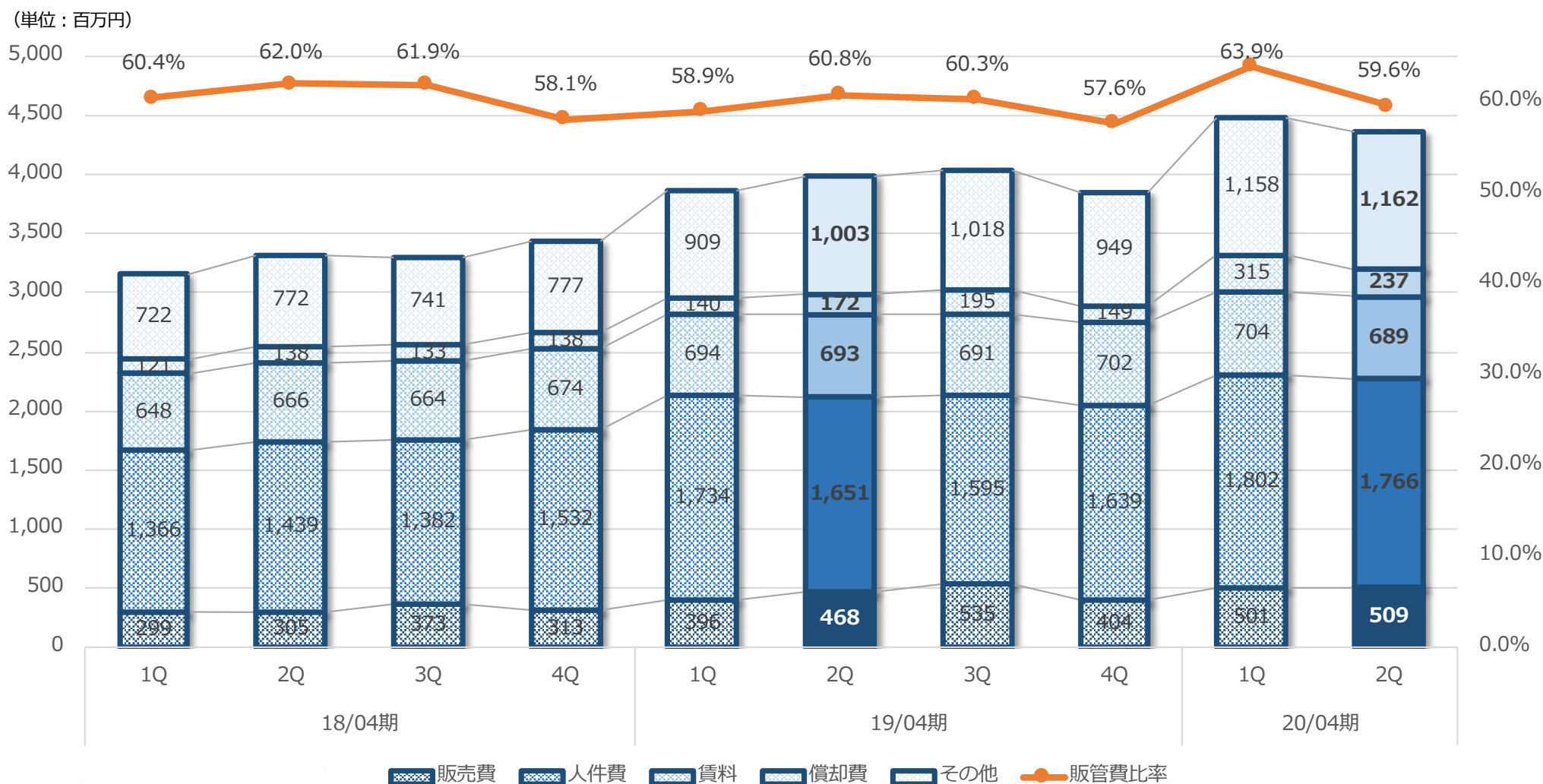
事業規模の拡大に対応したイクケア人材の確保、並びに育成を進め、従業員数は前年2Q比7.6%増の1,826名

(単位：人)



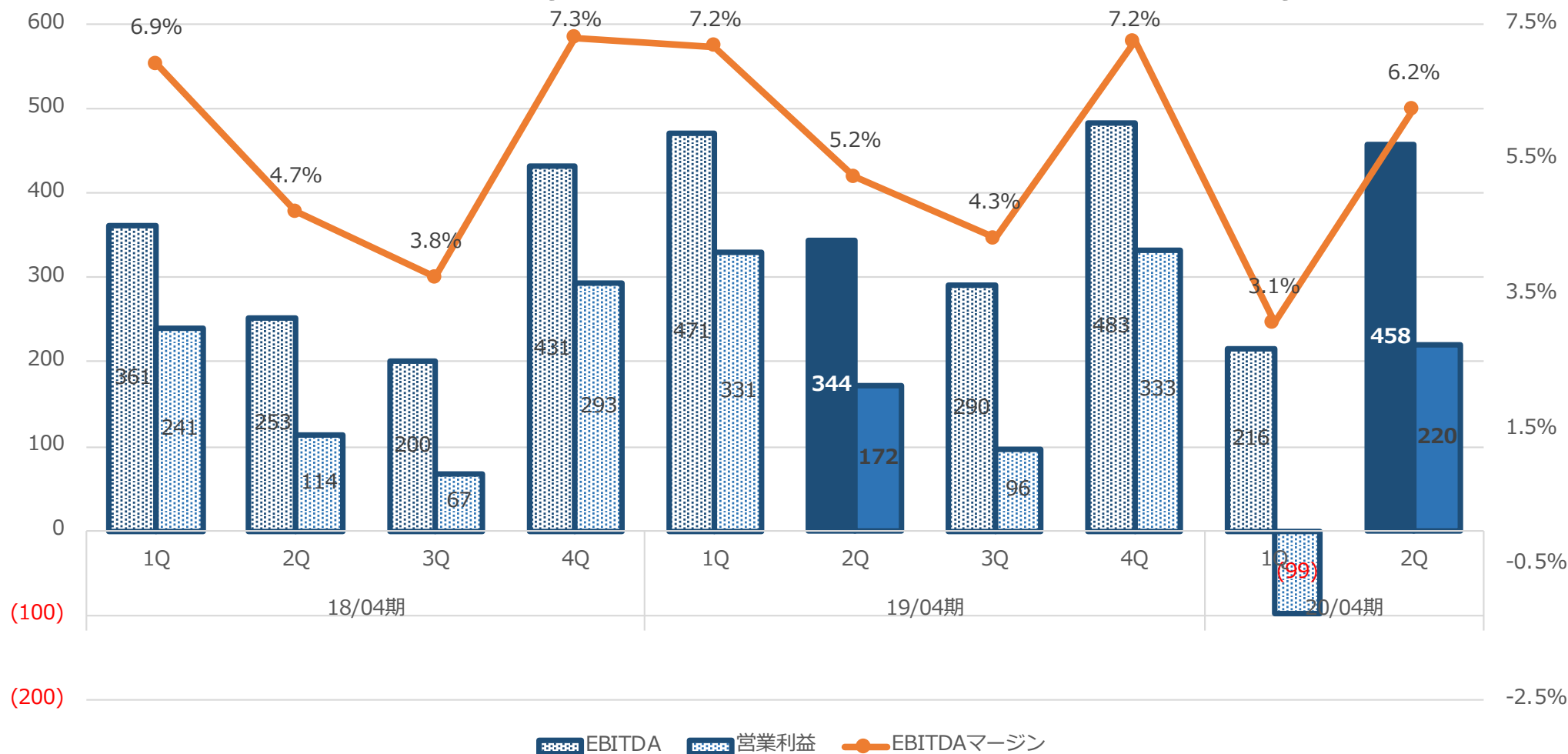
販売費及び一般管理費（四半期推移）

新店や次世代型店舗への移行、検査機器リニューアル等の事業成長投資、これらにかかる販売費等の増加及び人材の増強、並びにVISIONIZEの株式取得にかかる追加のれんの償却等、費用先行から前年2Q比9.4%増



EBITDA / 営業利益（四半期推移）

VISIONIZEの追加の支払いに係るのれん一括償却（既経過分）を主要因として営業赤字となった1Qから一転、2Qは売上高の成長により、のれんの償却負担増等の要因も吸収し営業利益は前年2Q比**28.0%増**、EBITDAについても前年2Q比**32.8%増**

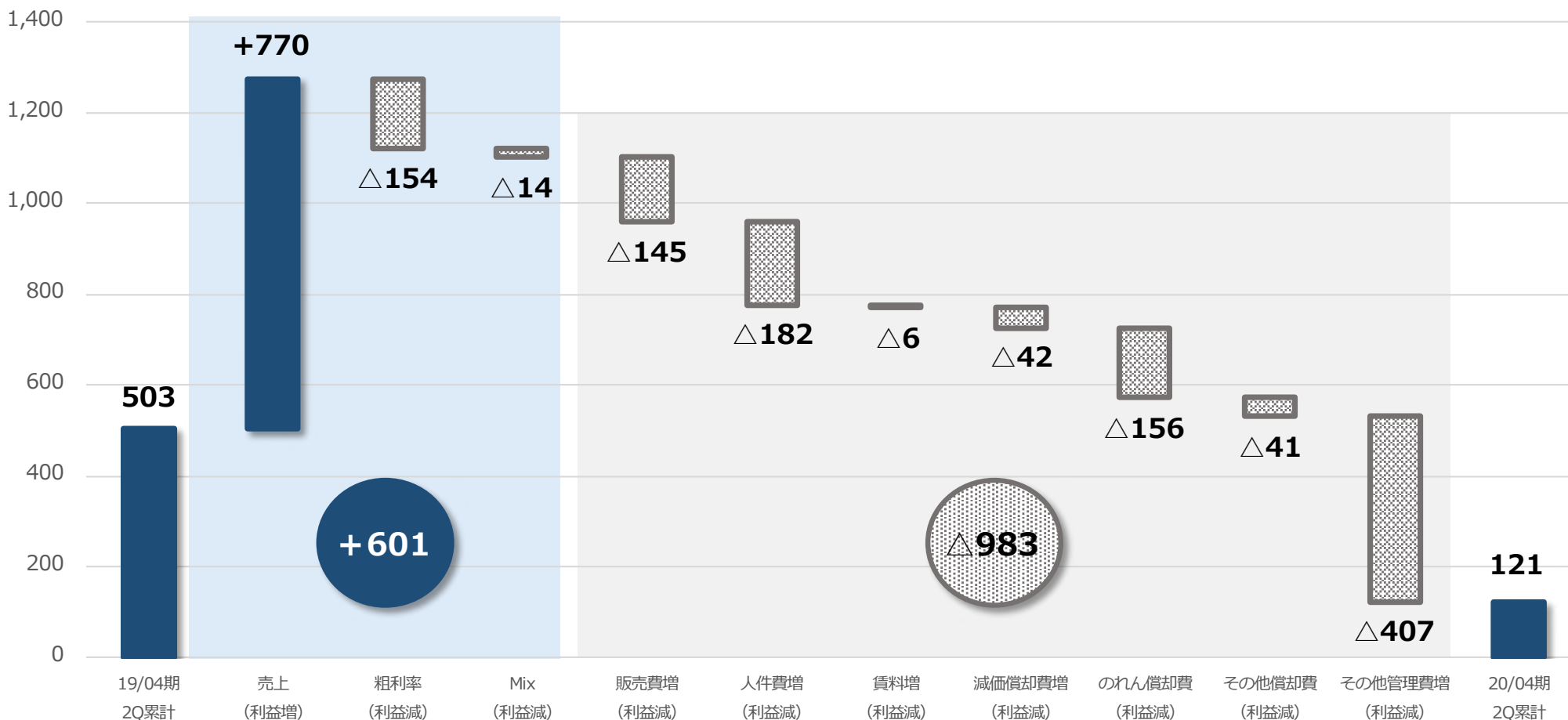


※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 長期前払費用償却費 + 除去債務償却費用 + のれん償却費 + 株式報酬費用

2Q累計 営業利益の増減分析

増収も売上高の成長に伴う諸費用、事業成長投資にかかる諸費用並びにVISIONIZE株式取得（アーンアウト）に伴うのれんの一括償却等の費用増により、営業利益は前年2Q比△382百万円減

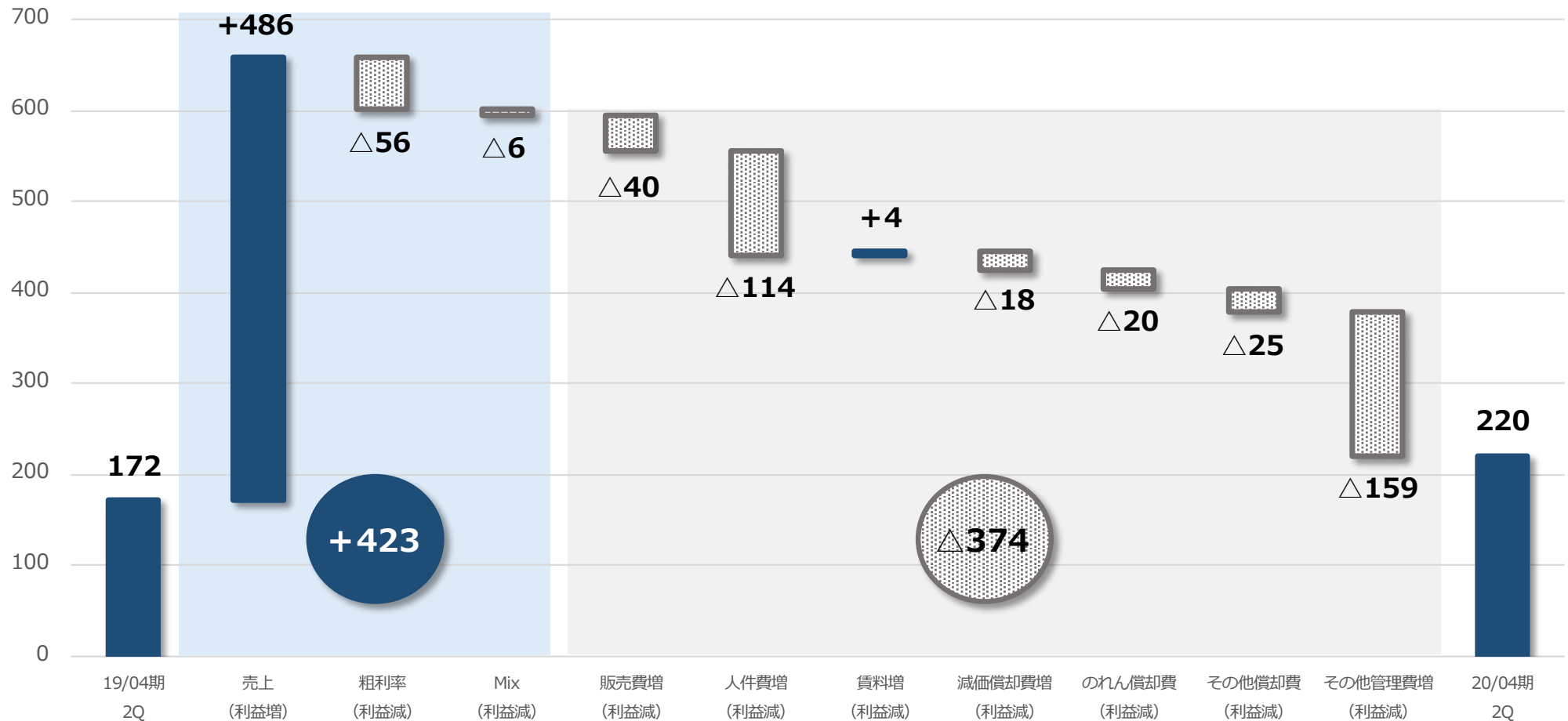
(単位：百万円)



2Q (8-10月) 営業利益の増減分析

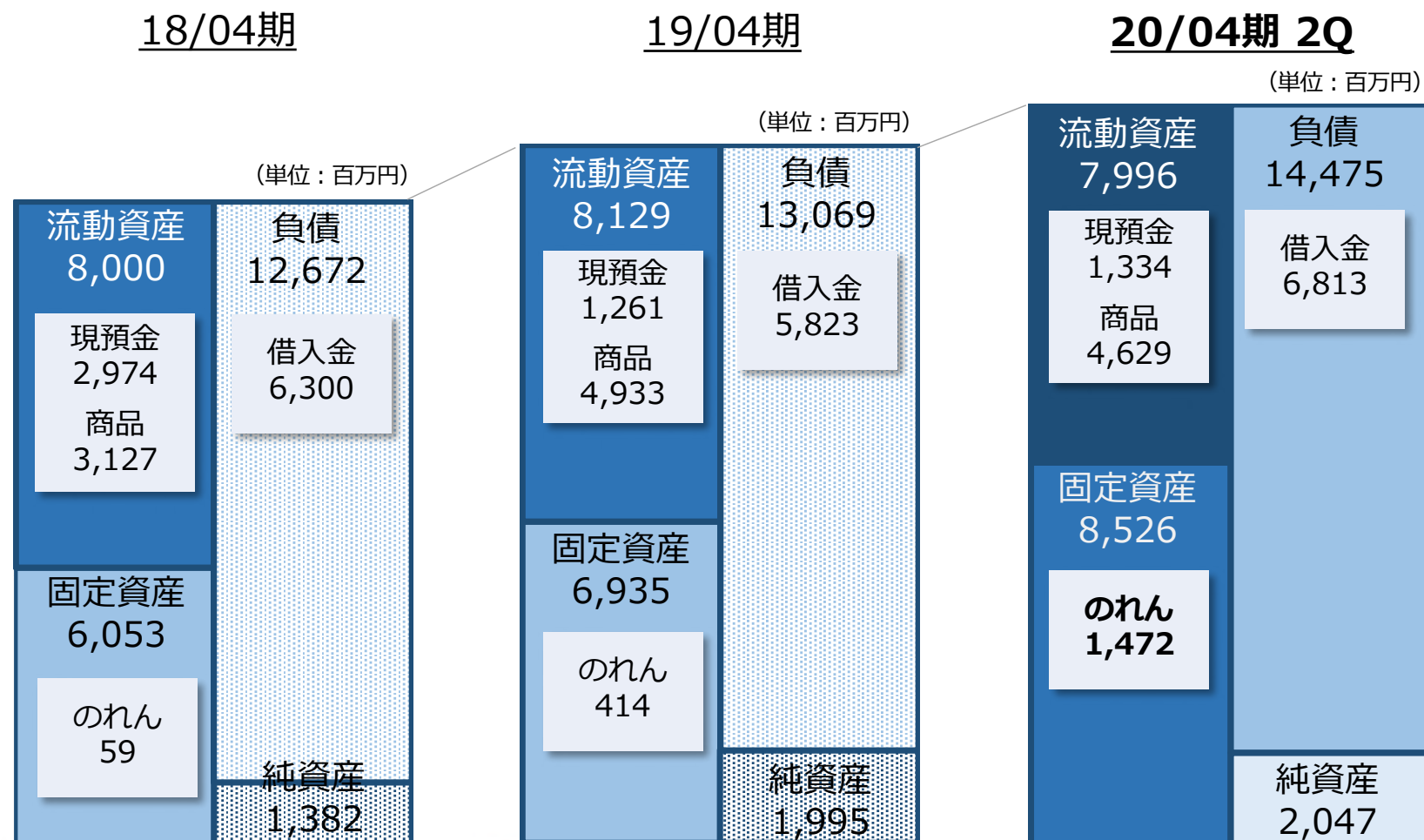
事業成長並びに事業成長投資に伴い諸費用は増加するものの、増収効果に加えて販管費のコントロールが奏功し、営業利益は前年2Q比+48百万円増

(単位：百万円)



連結B/S推移

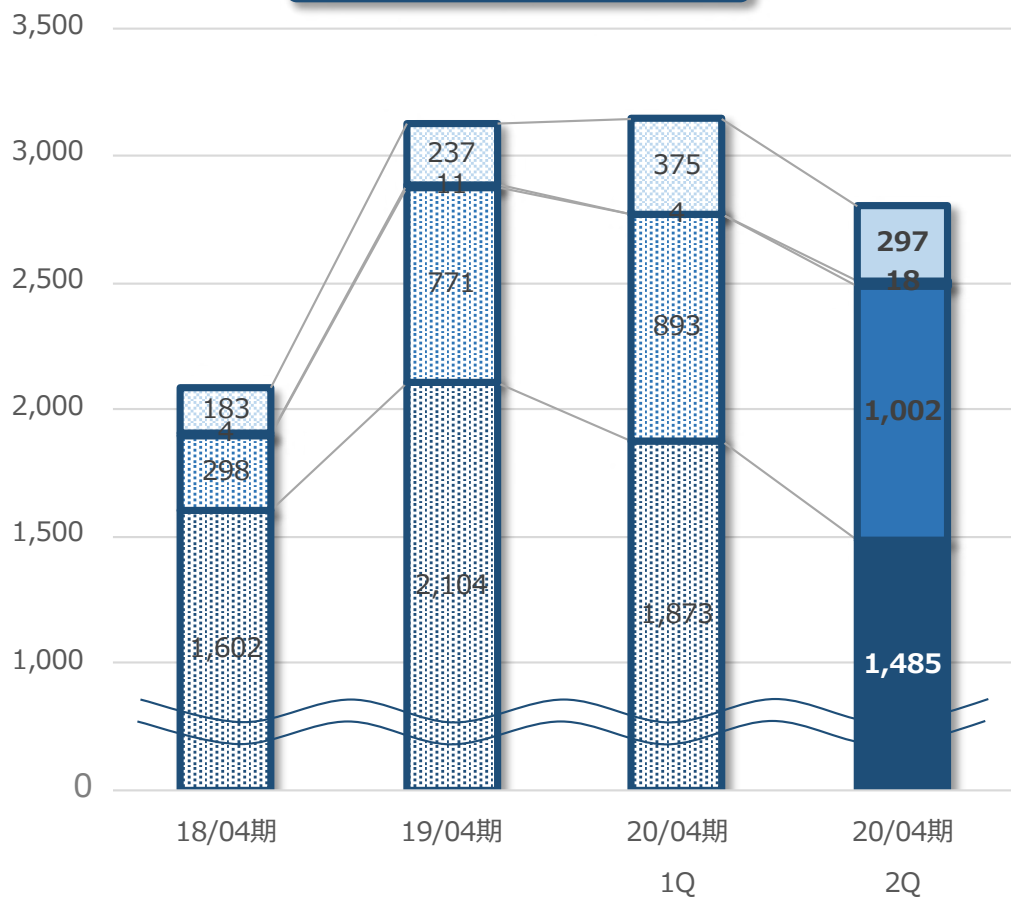
新店、次世代型店舗への移行等の事業成長投資、VISIONIZE株式取得にかかる“のれん”の追加計上等により、固定資産は前期末比22.9%増。本株式取得に伴う借入金の増加により負債が前期末比10.8%増、純資産は2.6%増



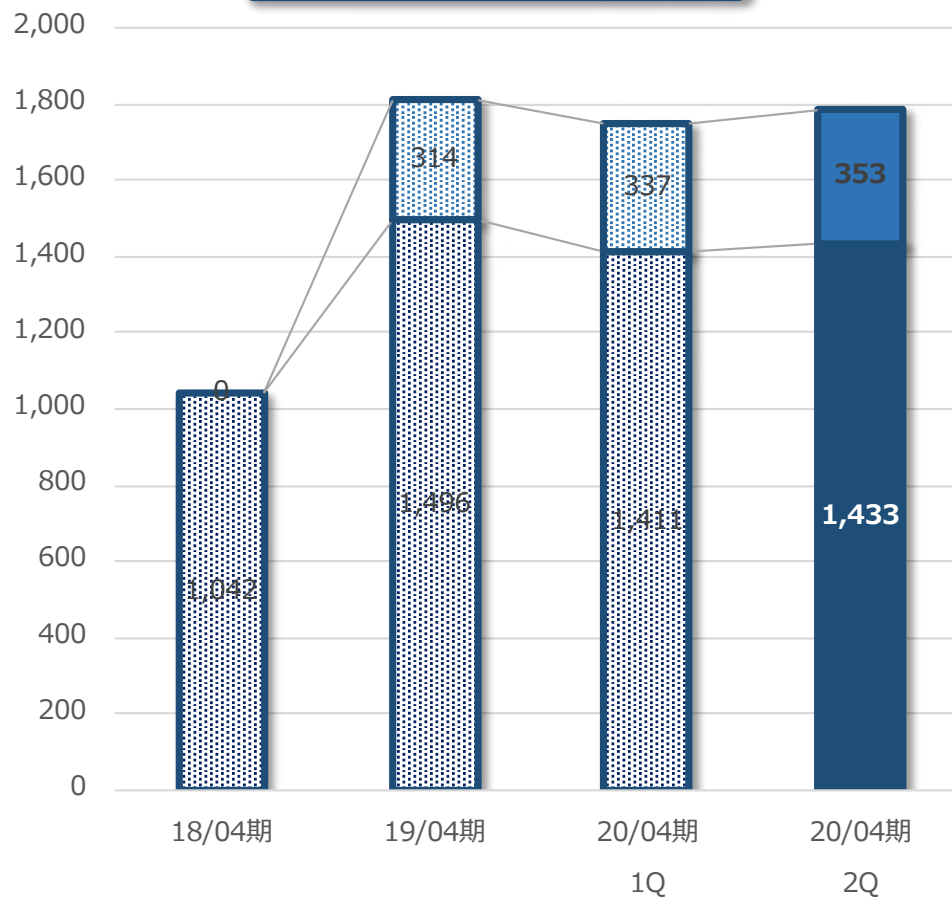
アイケア商品の充実

アイケア認知の高まりや次世代型店舗への移行、メガネ・補聴器の検査・サービス・設備の充実にあわせて品揃えの充実（＝在庫投資）を図りながら、各店毎の在庫の適正化を進める

アイケア商品



《参考》 その他商品



■ 既存店 ■ 新店・次世代型移行店 ■ EC ■ 物流センター

■ コンタクトレンズ ■ 卸売事業

自己資本比率 / 有利子負債依存度の推移

事業成長投資により現預金の減少及びVISIONIZE株式取得（アーンアウト方式）にかかる追加支払資金の借入による確保により、有利子負債が前期末比17.0%増、純有利子負債は前期末比59%増となる。事業再生完遂に伴う種類株式の普通株式への交換を実行するにあたり引き継いだ借入金を10月末に完済し、2Qは利益計上するも自己資本比率は前期末比1.0pt減の9.9%

(単位：百万円)

